

地域で孤立している複合的な課題を抱える方へのアプローチ

○相談内容（キーワード：8050問題、ゴミ屋敷、認知症、障害）

マンション自治会長のAさんから、同じマンションに住む80代のBさん宅に大量のゴミが溜まり、悪臭や害虫で近隣住民が困っている、と相談を受けた。またBさんは50代の娘Cさんと同居しているが、Cさんは夜中に大声で叫ぶなど挙動が不審で他の住民に怖がられている。マンション管理人が見つめて注意すると一時的に治まるが、すぐにまた同じ行為を繰り返す。Cさんには何らかの障害があると思われるが、母親であるBさんは「甘やかして育てたからあんなただけ」と障害を認めようとせず、福祉的な支援を拒否している。Bさん自身も高齢で記憶が曖昧なことがあり、認知症が始まっている可能性も考えられた。

○コーディネーターの働きかけ

相談を受けたコーディネーターは、おとセン、保健所、行政にこれまでの関わりについて確認した後、マンション内の集会室で自治会長、マンション管理人、おとセン職員と情報共有や今後の支援方針について話し合った。

その後、マンション管理人がBさんを説得し、コーディネーターはBさんから直接話を聞くことができた。Bさんは、持病はあるが困っていることはない、放っておいてほしい、と言い、Cさんについても「障害ではなく能力がないだけ」と捉えていることがわかった。そのままBさん宅を訪問すると、室内はゴミが溢れ、台所には害虫の大量発生が見られた。かび臭く、衛生状態も悪い。Bさんは「いずれは片づけなければならない」と言いつつ、1人ではどうすることもできない様子だった。Cさんは寝間着姿のまま、話した感じでは軽い知的障害があるようだった。またCさんにも持病があることがわかった。

以後コーディネーターは月1回の定期訪問を続けた。その間もBさんの態度は変わらず、室内が片づく様子もなかったが、半年が経過した頃、Bさんの不審な行動が見られるようになった。さらにCさんのかかりつけ医であるT病院から、CさんがBさんのことでコーディネーターに相談したいと話している、との連絡があった。Cさんの話では、Bさんの物忘れがひどく、Cさんに対して暴力をふるうこともあるとのことだった。早速コーディネーターはおとセン職員とともにBさん宅を訪問。Bさんは見当識障害を起こしており、憔悴しきっていたが依然として支援は拒否された。そこでCさんから親族の連絡先を聞き出し、Bさんの窮状を伝えたところ、驚いた親族からすぐに協力の申し出があった。

Bさんは第三者の支援には拒否的だが、親族の支援は積極的に受け入れ、ゴミの間

題は著しく改善された。一方、Bさんの認知症は進行し、在宅生活が困難になったため、入院加療を経て施設入所となった。独居になったCさんは、今のところ親族の支援を受けつつ、単身生活を継続中。ただ親族も高齢のため、コーディネーターは徐々に公的な支援に移行する方向でCさん本人や親族、行政（障害者支援担当）と調整を進めている。

○成果

コーディネーターが関わったことにより、少しずつBさん・Cさんの置かれた状況が把握され、関係機関と共有することで支援に必要なネットワークを構築することができた。またコーディネーターがT病院や親族とつながり連携できたことは、定期的にBさん宅を訪問（＝アウトリーチ）したことの成果と言える。ここに至るまでには自治会長、管理人、T病院等の連携が不可欠であり、結果的にコーディネーターは直接的に支援せず、関係機関とのつなぎ役として機能することで各機関の専門性が十分に発揮され、Bさん・Cさんを取り巻く環境調整が図られた。

○今後の方向性

今後は独居となったCさんに対する生活支援が中心になる。特に複数の持病があるCさんにとって、安定的な通院や服薬のためのサポートが喫緊と言えるが、現段階ではCさんとコーディネーターとの信頼関係が十分ではないため、引き続きT病院と連携しつつ今後の生活に向けた支援体制の構築に向けた関わりをしたい。

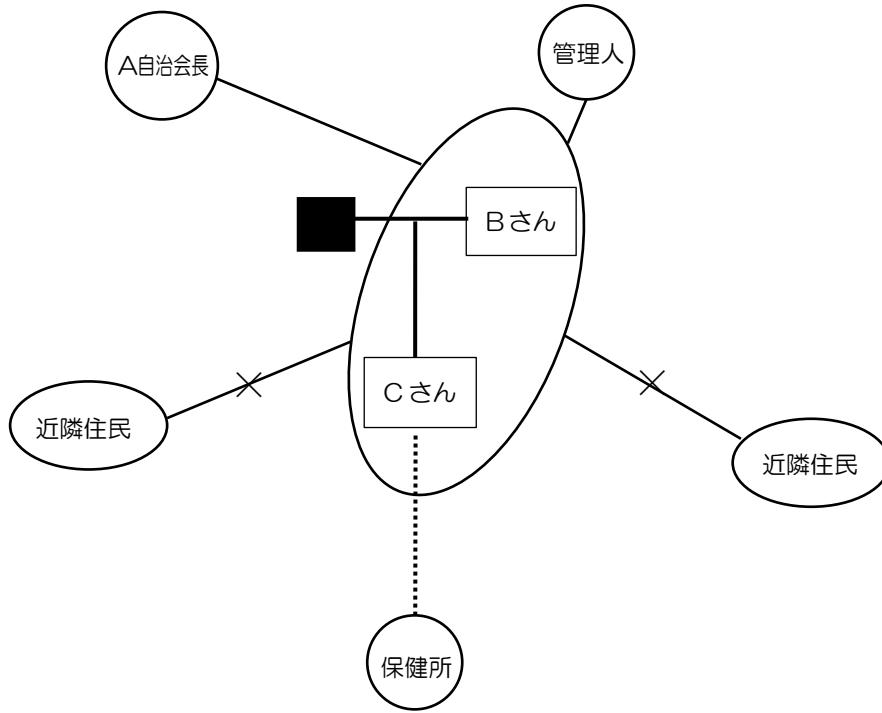
また施設入所後のBさんのサポートは専ら親族が行っているが、Cさんの在宅生活を支える上でも親族はキーパーソンになり得るため、困りごとが起きた際には速やかに関係機関につないでもらえるように適宜連絡をとり、状況把握と必要なサポートに努めたい。

○スーパーバイザーの視点

- ・親が子の障害を受容できないまま高齢化し、子は大きくなっていくという、最近多い事例の一つ。
- ・マンション管理人はキーパーソンになり得る。その熱い思いを支援に結びつけるコーディネーションが必要。
- ・Cさんのストレングス（強み）にも着目する。
- ・Cさんの資産状況を把握し、必要に応じて金銭管理サービス等の利用を勧める。
- ・親族に今後の見通しと問題点について示しておく必要がある。
- ・Cさんの介護保険については訪問看護や服薬管理等生命に関わる部分を優先的に進める。

○エコマップ

①コーディネーターが関わる前



②コーディネーターが関わった後

